



## 読者からの声

石川医報の「読者からの声」は、会員がいろいろな意見を交換する場です。  
ぜひ、皆様からのご意見、ご投稿をお待ちしております。  
(編集部より)

### 女性医師の窓

## 伝承する文化

石川県リハビリテーションセンター  
石川県済生会金沢病院 リハビリテーション科 岸谷 都

30数年前、大学の最終学年は、国家試験に合格することが目標であり、ポリクリメンバーと放課後、過去問集などを分担で解説しあい、授業のノートや教科書からの知識で教え合っていた。マークシート方式の筆記試験のみで資格はもらえたが、資格だけでは仕事ができるはずがない。また学生時代の知識のみでは現場では役に立たず、先輩から細かい事柄、例えば、点滴のルートをとるときは血管が逃げないように指で両脇を押さえる。糸結びのコツ、石膏ギプスの巻き方、「臥床中の人に褥瘡、腓骨神経麻痺を起こすのは恥だ。」そして、「なかなか回復しない患者さんこそいやがらず、よく顔を出しなさい。」などの含蓄のある言葉、脳性麻痺の痙直型、アテトーゼ型の歩行を解説付で実演され、「模倣ができるほど、動きを観察せよ。」と先輩達から今から思えば贅沢なほど知識と経験に裏打ちされた言葉を浴びせられていた。

さて、現在放送中のNHKの朝の連続ドラマ「とと姉ちゃん」は、昭和初期から戦中戦後、日常の暮らしのささやかな喜びやていねいに暮らすことを目標にした雑誌「暮らしの手帖」の創刊者をモデルにしている。ドラマの方は、主人公が周囲の大人達の言動に教訓や影響を受け成長する姿を描いている。材木商の祖母が、職人が注文と違った木を製材し客はわからないだろうからと売ろうとしたことを叱責し、老舗のプライドを守ったことを目の当たりにした主人公は、居候している仕出し屋の弁当の配達で「松」と「竹」を間違っただけで配達したため、すべての注文客に謝罪に行ったところ「竹を注文した客は得したんだから謝る必要がない。」という大将に対して、「筋を通すべき。」といった主人公を女将が「気に入った。」という場面は、最近の大手自動車メーカーや建設業の改ざん問題をはからずも指摘しているように思える。

2年前から、金沢市医師会の「謡曲練習会」に参加している。500年以上前から伝わる世阿弥らの曲を先生が謡われ、それを聴き、まねしていく。現代はテープレコーダーで何度でも再生できるが、かつては口伝えだけで受け継がれてきたのである。教える方も教わる方も現代の便利な機器のない時代は真剣勝負であっただろう。

先人の教えを伝承し、それを体現していくことが医療であれ、さまざまな分野、産業でも共通していると思う。目先の利益ではなく、長く受け継がれるべき技術、心意気が組織の財産であり、大切にすべきことである。

当院のリハビリテーション科医師は長らく2人であったがリハビリテーション医療を志す医師が4月より新たに着任した。物事を伝えるには自分の実践を客観視し、言語化する必要がある。かつての先輩達のように自ら習得した事を言葉で伝える重さを感じている。



金沢市医師会「謡曲練習会」と松韻会(県医師会謡曲の会)との合同発表会  
平成28年4月10日 県立能楽堂にて



川北 整 筆者 室石 豊輝  
当院リハビリテーション科医師